

建築人

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.740

2026
2





「MOAIの独言」
 日々に引かれた光景やモノをスマホで撮影、加工した作品
 私が惹かれるのは
 蓄積された時間が感じられるモノや光景
 自然の造形物
 今その時しかない光
 固定概念にとらわれず自由に感じてください

Photographer MOAI
 岩手県盛岡市出身
 1985年大阪芸術大学卒
 同年広告企画制作会社にカメラマンとして入社
 あらゆる業種業態のクライアントの撮影に携わる
 1996年フリーランスとなりPhoto Office MOAI設立
 大阪を拠点に広告写真を中心に活動中

建築人

2026.02 No.740

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「川西市の共同住宅」2024年

第17回 建築人賞奨励賞 受賞作品

設計：藤本高志建築設計事務所

施工：吉本建設

撮影：高橋菜生写真事務所

工場や住宅が混在し、鉄道や空港に隣接する敷地に計画した6世帯の共同住宅。周辺環境に呼応する中間的なスケールを採り、木造2階建てのコートハウス型を採用した。中庭から各住戸にアクセスし、異なる間取りと坪庭・高天井空間により戸建住宅のような暮らしを実現した。

2 MOAIの独言

4 Gallery 建築作品紹介

「アーバンネット御堂筋ビル」

設計：KAJIMA DESIGN (実施設計)

NTT ファシリティーズ (基本設計)

施工：鹿島建設

「京都銀行小倉支店」

設計：竹中工務店

施工：竹中工務店

「エタニティオリジンビル」

設計：登工務店一級建築士事務所・ラウンドアーチ

施工：菱和建設

「大津の家」

設計：大西憲司設計工房

施工：笹原建設

8 動静レポート

9 Topics

10 Information

12 News of Note

14 記憶の建築

「佐賀県体育館(現・市村記念体育館)」1963年

清新さと力強さを湛えて / 松隈 洋

建築人 No.740 2026年2月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：松下典央

委員長：武藤優哉

編集人：河野 学 荻窪伸彦 笠松哲司

川北武志 小谷美樹 昇 勇

中北 力 春岡須磨子

三谷勝章 村上栄司 山本恭史

事務局：辻本和人 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

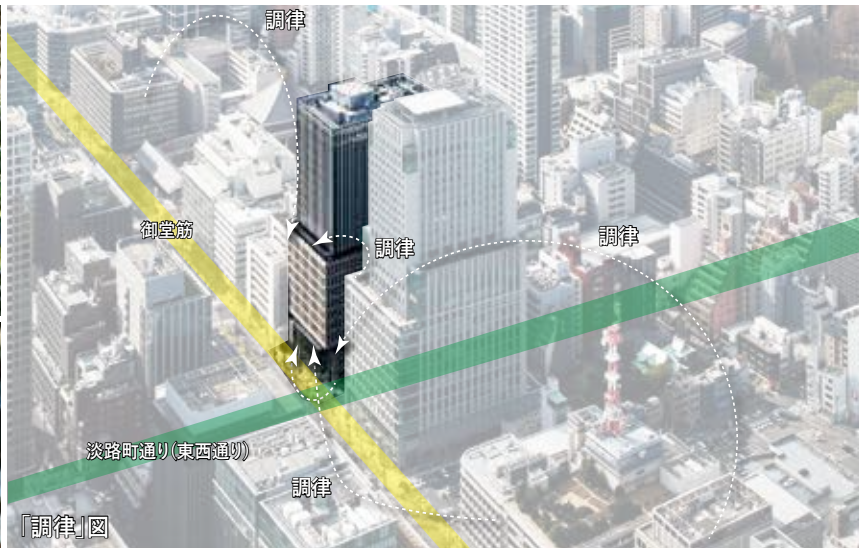
令和8年2月1日発行

発行人：会長／岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961



失われつつある御堂筋の景観に対し、「調律という景観作法」および「価値の立体化」を創出・実践した複合オフィスビルの計画。

「調律」：御堂筋の歴史的建物の要素を“音”と捉え、これらを引用し現代的な個性を加えた。伝統的コードであるボツ窓を継承したファサードは快適性・環境性の両立によりZEB Readyを実現。隣接街区との底の連続や、統一した樹種・舗装により新たな並木通りを形成し淡路町通りの賑わいにも寄与している。

「価値の立体化」：御堂筋沿いに設けた低中高層のテラスにより、沿道と一体となった公共空間を立体的に形成。こうした充実した共用部により関西初のWELL Core本認証を取得している。

所在地：大阪府大阪市
用途：事務所、店舗
竣工：2024.01
構造規模：S造、一部RC造
地下2階
地上21階
敷地面積：2,770.88㎡
建築面積：2,245.55㎡
延床面積：42,425.38㎡
写真：Forward Stroke inc.



京都府宇治市小倉に位置する銀行支店の建替計画。高齢者を中心とする地域住民の日常利用が多いという既存店舗の特性から、居心地のよい住宅のようなぬくもりを感じさせる銀行店舗とした。街に対する窓のように切り取った正面開口からは、中庭のようなボイドを介して2階窓口・ロビーにあがる階段が見え、銀行特有のプライバシーや安全性を確保しつつあたたかな内部空間がうまれる構成とする事で、街と銀行のここちよい関係性を創出した。外観はエントランスに設けたRCの庇と左官塗材で端正で重厚な構成とした。銀行としての役割を担いながら、人々の暮らしに根ざし新たな小倉の街の風景をかたち作る建築となることを願う。

(小林浩明・大脇 春)

所在地：京都府宇治市
用途：銀行
竣工：2025.09
構造規模：RC、SRC
2階建て
敷地面積：637.02㎡
建築面積：429.13㎡
延床面積：835.50㎡
写真：古川泰造



吹田市江坂付近では、近年、魅力向上事業の一環として、吹田市と指定管理者が江坂公園と園内にある図書館を一体的にリニューアルし、より楽しく安全安心に利用できるよう、魅力を高める取り組みを行っています。そのような賑わいを見せる江坂エリアの御堂筋線江坂駅から徒歩10分の地に、5階建ての事務所ビルを建設しました。1階は駐車場、2階～5階は、コア部分をまとめた200㎡弱の事務所空間とし、各階フロア貸しとする計画です。外観は、吹田市景観まちづくり条例に準拠した落ち着いた色合いにまとめ、ずっとここに建っていたかのような、まちに溶け込む事務所ビルになりました。

所在地：大阪府吹田市
用途：事務所
竣工：2025.12
構造規模：鉄骨造
5階建て
敷地面積：388.48㎡
建築面積：293.75㎡
延床面積：1,451.23㎡
写真：数内正直



夫婦と小学1年生の双子（姉妹）4人家族のための住まいである。奥行60mの土地を旗竿形状に分筆した幅3m奥行30mの竿部分の先に駐車場とアプローチを設け、建物は前面に平屋建、後面に2階建のボリューム配置とし、長いアプローチから建物、北側の山へと視線が緩やかに繋がる。平屋建部分に洗面室・浴室・独立した和室、2階に家族の寝室を配置し、家族の中心となる1階北奥に設けたLDKは南側の平屋建ボリュームの壁で囲われたデッキテラスと緑豊かな中庭と一体になり、アプローチと中庭の間に設けた大引戸を開け放つと竿部分・駐車場・アプローチ・中庭が軸線上に連なり、敷地内での外部と内部の回遊が生まれ領域が拡張し、双子の遊び場の可能性も広がる。（大西・清野）

所在地：兵庫県姫路市
用途：専用住宅
竣工：2025.12
構造規模：木造2階建
敷地面積：434.38㎡
建築面積：91.52㎡
延床面積：113.25㎡
写真：福澤昭嘉

動静レポート

会長動静

- 12/26 組織改編ワーキング会議
- 1/5 在阪建築 16 団体新年交礼会
- 1/6 日刊建設工業新聞社年賀交歓会
- 1/7 金子国土交通大臣面談
- 1/10 健康・省エネ住宅を推進する国民会議・上原理事長面談
- 1/12 総合資格学院合格祝賀会
- 1/14 内山鑑定協議
日本建築士会連合会正副会長会議
- 1/15 日本建築士会連合会理事会
- 1/16 エスケー化研創業 70 周年謝恩新春会
役員候補者選考委員会
- 1/19 「もう一度学ぶ 衛生 給排水設備」受講
大阪宅地建物取引業協会新年互礼会
- 1/20 日本ウクライナ文化交流協会との意見交換会
- 1/21 理事会
- 1/22 建築家・藤本荘介氏、平沼孝啓氏、平田晃久氏面談
海外研修旅行事前説明会
- 1/23 全日本不動産協会大阪府本部新年賀詞交歓会

1 月度 理事会報告

日時 1 月 21 日（水）16：00 ～ 17：30
場所 本会東会議室及び WEB
出席 理事 40/45 名 監事 3/3 名

【審議・承認事項】

(1) 会計報告、入退会

(円)	12 月計	累計
収入	8,988,029	135,669,244
支出	10,637,453	116,725,282
差引	-1,649,424	18,943,962

(人)	12 月	入会	退会
正 会 員	2,098	3	-7
準 会 員	28	0	0
特準会員	22	0	0
賛助会員	156	1	0
計	2,304	4	-7

上記の当期経常増減明細と入退会を承認しました。

(2) 令和 7 年度収支報告と令和 8 年度予算素案

令和 7 年度収支は文化庁補助事業の返還金がありましたが、耐震評価業務の件数増や建築士サポート事業の委託費増等により約 1,400 万円の黒字で推移していることを報告しました。また、各部門より令和 8 年度予算素案が提示され、公益法人として収支差引±0 を目標に調整を図ることとしました。

(3) 日建学院との特別学費適用についての覚書

本会の正会員および準会員が日建学院の講座に申し込む際の、特別学費適用に係る覚書の締結を承認しました。

【報告事項等】

(4) 事業執行報告

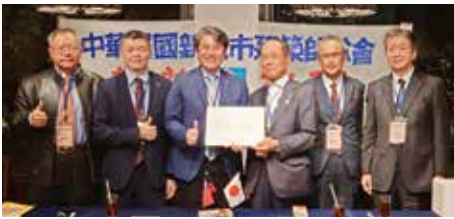
定款第 21 条 4 項に基づき、会長、副会長、常任理事（部門長）、専務理事が事業執行報告を行いました。なお、昨年 1 月より開設しました建築士サポートセンターの対応実績は面談 8 件、電話 8 件にのぼり、今月末で終了となります。

(5) 令和 8 年度理事会・運営会議 開催日程

令和 8 年度の理事会および運営会議の年間開催日程を報告しました。

新北市建築師公會と覚書を締結

11 月 27 日にザ・ガーデンオリエンタル大阪にて、台湾の新北市建築師公會と本会は、相互間の技術交流・情報交換を目的とした交流促進についての覚書を締結しました。調印式には両団体の関係者 43 名が出席し、親睦を深めました。



中華民國全國建築師公會による 54th 建築師節 慶祝大會へ参加

12 月 13 日に台湾の台北市で開催された中華民國全國建築師公會主催 54th 建築師節 慶祝大會へ岡本会長、横田副会長、河野理事、森田特任相談役が参加いたしました。中華民國全國建築師公會の皆様と親睦を深めるだけでなく、シンガポール建築士会の皆様とも交流を持つことができ、充実した国際交流の機会となりました。また、前日には建材メーカーの展示会、台北市内の視察も実施いたしました。



日本ウクライナ文化交流協会 小野会長との意見交換会

1 月 20 日に日本ウクライナ文化交流協会の小野元裕会長及び昨年ウクライナに渡った本会会員の松富謙一氏を交えて、ウクライナの現状をお聞きする会を開催しました。本会はウクライナ全国建築家連合会と交流促進の覚書を締結しており、今後ウクライナ支援について検討を進めていきます。なお、3 月 23 日には「ウクライナの建築と文化を学ぶ」と題し、松富氏にご講演頂きます。



「近畿学生住宅大賞」—審査会で感じた学生の意欲—

日程：令和7年12月6日(土)

会場：大阪府建築健康会館

参加者：65名

建築を学ぶ学生が少なくとも1度は取り組む課題は住宅設計である。生活の場である住宅は学生にとって身近で、イメージしやすい。そんな住宅課題を対象としたコンテストが「近畿学生住宅大賞」である。夏休み前に各学校へチラシを送付、夏休みの間に作品をブラッシュアップして応募してもらった。過去の課題でも構わないが、応募資格は大学1～4年生までの学年に限られる。作品は9月にデータで提出してもらった。

審査員は、阿曾実美・河合哲夫・島田陽・白須寛規・平塚桂の5名。いずれも各分野の最先端で活躍される先生方だ。一次審査はデータで審査し、二次審査に進むのは15作品程度。模型と4.5分のプレゼンで競う。審査員は模型に近づき、細部まで確認し、鋭い質疑が飛び交う。ユニークなのはコンテストでありながら学校での講評会を思わせる。

学生たちは外部の先生からの評価を楽しんでいるようだ。二次のプレゼンが終了すると審査会タイム。5人の審査員の意見がまとまらなと公開審査が始まる。各審査員の得票で決まるが票が割れると推しの作品について応援講評が始まる。ワクワクドキドキの時間である。最終的には学生にも伝わる議論の末に受賞作品が決まる。

その後、表彰式と茶話会を開く。茶話会を開いたのは審査員から「学生と一緒に懇親会に参加したい」との声があったからだ。学生も各先生に評価してもらいたいのがヒシヒシと伝わるので茶話会を開催する事にした。1時間ほどの短い時間ではあるが、学生は自分の作品パネルと模型を展示しているところに審査員を誘い、評価を求める。また、学生同士もそれぞれの展示した作品を通じて意見を交わしている。最近の学生はスマホばか

田代加奈(建築表彰委員会 委員長)



り見て対面での関わりが下手なのではと思っていたが、コンテストに応募する意欲のある学生は自らアピールする事を得意としているように感じた。学生の様子を見ると、建築の未来は明るいぞという気分に一日を終える事ができた。

この賞のもう一つの特徴は企業賞があることだ。協賛企業に作品を選出してもらい、企業が自ら賞を授与する。その受賞作品も展示する。企業にとっても学生の本質を見極める機会になればと思っている。

この賞の認知度はまだ低いが誰しもに期待される賞にこれからも育てていきたいと願っている。



Talk Relay わたしの推し 「日本刀に魅せられて」

日本刀は「鉄」と「火」と「水」から生まれる最高位の美術品と私は思っています。精美で黒く深く研ぎ澄まされた鉄(地がね)の美、その姿は「威厳」や「静寂な美」を感じさせ見る人を魅了します。一方、その凄まじい斬れ味から「恐れ」を感じさせるものでもあります。一瞬にして人や物を断つことから古来より「神」の化身、神が宿るものと考えられ魔物を斬る、邪鬼を祓う、人(家)を守る、厄を祓うものと言い伝えられ崇められてきました。その歴史は平安時代に湾刀(反りのある刀)が完成され、鎌倉時代には刀剣界の骨幹となる五力伝(大和伝、山城伝、備前伝、相州伝、美濃伝)という流派が確立されます。以後明治に至る長い間、戦法や社会の変貌に合せ刀の姿や操法も変化してきました。明治以後は職業の威厳や地位を誇示するものですが、太平洋戦争後は連合軍から刀=武器と恐れられ、国宝、重文級の刀も軍刀も区別なく没収され処分されました。有識者の返還運動

の結果、美術刀剣(古来の方法で作刀された刀剣)のみ返還されましたが、多くの名刀が失われました。日本刀の見どころは、姿のほか白い「刃」の部分と黒味をおびた「地」に現れる「働(はたら)き」と呼ばれる模様の鑑賞にあります。刃文には直線や曲線、乱れた形など様々あります。白い刃中には足、葉、沸、砂流し、金筋等といわれる日本刀独特の模様が現れます。「地」の部分にも地景、地沸、映りなどそれぞれ異なった模様が現れます。これらの特徴は各流派によって刀身に必ず現れるもの、現れないものに分かれますが、流派内では必ず同様の模様が現れるのが「掟」となります。有識者(鑑定人)はその特徴をみて作者や流派、作刀年代、産出国名を見極めます。現在、刀剣に触れる機会は「鑑賞」と「武道」があります。鑑賞では、博物館や美術館で見ることができるほか、愛刀家の同好会等では実際に刀に触れ、鑑賞してその特徴を見て、作者や流派、国名、製作年代を極める入札

一本久次(シニアサロン 委員長)



(ゲーム)鑑定会(鑑定書を発行するものではない)が行われています。武道では、居合道や試し斬道があります。居合道は刀の抜刀操法を極める武道で、模造刀が一般に使用されますが、真剣で行う流派もあります。試し斬は試し斬り、据え物斬りを行う武道で、実際に真剣で巻藁(畳表だけを巻いたもの、小竹に畳表を巻き付けたもの)を斬ります。日本刀は鈍刀であっても恐ろしく斬れます。私の愛刀は表に「備州長船祐定作」、裏年紀は「天正十年八月日」(1582年)とある備前刀です。古い鑑定ですが「甲種特別貴重刀剣」に認定されているものです。「天正十年」といえばこの年6月には京都で「本能寺の変」がありました。この刀ができた時には織田信長、明智光秀こそ亡くなっていますが、羽柴秀吉、徳川家康、柴田勝家など大物武将がまだ実在しています。そのようなことを想いながらこの刀を何人の武士や過去に所有した人が眺めたのかなと思うと感慨深いものがあります。

建築士会からのお知らせ

広域災害調査技術者講習会
第4回『地震保険調査ポイント整理』
2/12 CPD5単位予定

本研修会は、近年ますます懸念が膨らむ大規模な災害に備えて建築士の職能を活かした取り組みの一環として、社会的復旧・復興に資する建物被害等の損害鑑定業務等の調査練度を向上させるため、近畿二府四県の会員向けに開催します。

日時 2/12(木)
10:00～16:00(受付9:30～)
講師 内山鑑定株式会社 大阪本部
上川部長 1級鑑定人
定員 対面方式(定員30名) + WEB方式
会場 大阪府建築士会 東会議室
※WEB方式はTeams使用
参加費 1,000円
※資料印刷代及び事務局経費
受講対象者 一級建築士、二級建築士

令和7年度 建築士定期講習
2/13、3/26

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和4年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼日程・会場・定員

※2/13(金) 大阪府建築健保会館 80名
3/26(木) 大阪府建築健保会館 70名
上記すべてDVD講習です。

※の日程：大阪府建築士会が運営
※以外の日程：大阪府建築士事務所協会が運営(注)各回定員に達し次第、受付を終了します。

時間 9:15～17:00(各講習日共)
受講料 12,980円(消費税含。事前入金)
申込 建築技術教育普及センターHPより

既存住宅状況調査技術者講習
更新講習2/25
CPD更新2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみに認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。令和4年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。

▼更新講習(DVD)

日時 2/25(水) 13:30～17:00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名(申込先着順)
受講料 WEB申込17,000円
郵送申込17,600円

▼申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。上記以外にオンライン講習も開催いたします。

<https://www.kenchikushikai.or.jp/koshukai/kizonjyutakujyokyochosa.html>

令和7年度監理技術者講習
3/11 CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。

日時 3/11(水) 8:55～17:00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名(申込先着順)
受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円
申込 日本建築士会連合会HPより
<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

東海道五拾七継を巡る 第2回
淀まちあるき
2/14 CPD3単位(予定)

「淀川地域・東海道五拾七継」の大江～淀～枚方～守口～大坂高麗橋までを5回シリーズで巡るまちあるき企画の第2弾です。

京阪石清水八幡宮駅集合～ケーブルカー～石清水八幡宮～男山四十八坊～京阪電車で淀へ～淀城跡～淀宿～唐人雁木～淀駅で解散。懇親会は電車で移動して伏見の日本酒、予算は5,000円程度の予定です。

日時 2/14(土) 13:30～16:30
終了後に懇親会を予定。

集合 京阪石清水八幡宮駅に13:00
講師 大阪府建築士会会員
定員 30名(申込先着順)

近畿建築士会協議会主催事業
2/21、3/7

【青年部会】

①公共空間の構想と実現
使われ方をどうデザインするか
日時 2/21(土) 9:30～17:00
会場 第1部 morineki
第2部 大阪歴史博物館

【女性部会】

②第10回くらしとすまいを見つめる継続セミナー
「建築家 古谷誠章 講演会～建築を通して人々が幸福になるまちをつくる～」
日時 3/7(土) 14:00～16:30
会場 京都市京セラ美術館
詳細は建築士会HPに掲載

住まいのメソッド
～CASE_01 高橋勝建築設計事務所～
2/27 CPD2単位(予定)

本講演会会場のβ本町橋を設計された建築家の高橋勝氏をお迎えして、β本町橋の設計時の工夫などを実際の建築を見ながらお話頂くと共に、氏の住宅設計についても実例をご紹介していただきながらお話を伺います。

日時 2/27(金) 18:30～20:00
会場 β本町橋 2階ラボ
(大阪市中央区本町橋4-8)
定員 50名(申込先着順)
講師 高橋 勝氏(高橋勝建築設計事務所)
参加費 40歳以下、又は住宅を設計する
仲間連会員1,000円
建築士会会員1,500円
一般2,000円



Informationの詳細及び申込みは大阪府建築士会ホームページに掲載しています。
<http://www.aba-osakafu.or.jp/> メール info@aba-osakafu.or.jp
 TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

脱炭素社会に向けてー建築計画最前線 3/6 CPD3単位(予定)

大阪府より脱炭素社会に向けての国の取り組み方針、大阪府の取り組み方針等について、各スーパーゼネコンより脱炭素社会に向けての最前線の取り組みを、様々な切り口からご講演いただきます。

その後、講演内容を踏まえ、各社の取り組み、今後の方向性と可能性についてディスカッションしていただきます。

日時 3/6(金)

13:45~17:00(集合受付13:30)

受講料 会員3,000円

後援団体3,500円

一般4,000円

会場 大阪府建築健保会館

定員 90名

令和7年度文化庁文化芸術振興費補助金 まち歩きとシンポジウム 『歴史を知る、歴史的建造物にふれる、 まち歩きを楽しむ』

3/7

日時 3/7(土)

【まち歩き(大阪市内)】10:00~12:00予定

参加費 3,000円 / 参加人数 各回15名

A: 四天王寺案内: 天王寺区

案内: 渡邊慶一郎 四天王寺勧学部勧学課

B: 藤田邸と網島文化財めぐり: 都島区

案内: 酒井裕一 大阪くらしの今昔館町家衆

C: 平野郷まち歩き: 平野区

案内: 吉村英祐 大阪工業大学客員教授

【シンポジウム】13:30~16:30

参加費 2,000円 / 参加人数 150名

会場 四天王寺 五智光院

大阪市天王寺区四天王寺

高槻城公園芸術文化劇場見学会

3/19 CPD2単位

日本建築学会作品賞を受賞した高槻城公園芸術文化劇場は、規模や機能の異なる3つのホールと10室のスタジオのそれぞれに「す

きま」を設けた分散配置が特徴的な劇場です。設計者よりこれまでの建築設計について語っていただき、この建築を成立させるための工夫等を紹介していただきます。

日時 3/19(木)

14:20~16:15(集合受付14:00)

受講料 会員・一般ともに3,000円

会場 高槻城公園芸術文化劇場 南館

定員 120名

シリーズ第3弾

ウクライナの建築と文化を学ぶ

3/23 CPD2単位予定

講演内容 ウクライナの復興に、日本の「建築士」の知恵を。

ー2025年、現地で見た再生への渴望ー

講演者 松富謙一／一級建築士

(CASEまちづくり研究所代表)

日時 3/23(月)

18:00~20:00(受付17:45~)

受講料 会員1,000円 一般2,000円

会場 大阪府建築士会 東会議室

行政からのお知らせ

大阪市ホームページのリニューアルのお知らせ「建築基準法上の道路種別と道路判定等(船場建築線)」

本市HPに掲載しております建築線について、中央区船場地区の船場建築線の説明および指定状況図(参考図)をリニューアルしましたのでお知らせいたします。

船場建築線は、土地の高度利用を図るため、昭和14年4月4日(大阪府告示404号)に旧市街地建築物法第7条ただし書の規定に基づき指定された建築線で、現在は建築基準法第42条第1項第5号の規定による道路の境界線とみなされています。

詳細は本市のHPをご確認ください。

<https://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/page/0000012045.html#3>



Talk Relay “わたしの推し” 記事募集

会員の皆さまの趣味やコレクション、特技、見聞など、リレー形式でご紹介していきます。建築に限らず、紹介したいこと、知って欲しいこと、広めたいこと、誘いたいこと、自己満足でも結構です。

会員の皆さまのコミュニケーションの場の一つとして、ご活用ください。

投稿をお待ちしています。

●詳細・申込は事務局まで

「建築人」Gallery掲載作品の募集

本誌「建築人」は毎月約3,000部を発行し、本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布しています。Gallery掲載作品は「建築人賞」の候補となります。

●掲載記事 1頁カラー、写真4点程度

●掲載費用 100,000円

※1 初回割引80,000円(設計者および施工者が過去10年間、Galleryに掲載されていない場合)

※2 若手初回割引50,000円(40歳以下かつ建築設計事務所を主宰され※1を満たす方)

●詳細・申込 事務局担当: 母倉

e-mail: info@aba-osakafu.or.jp

TEL: 06-6947-1961

東海道五拾七継を巡る

地域まちづくり委員会 北河内地域 石貫方子

地域まちづくり委員会北河内・みしま野地域では、「建築士」2025年8月号に掲載された大阪特集「淀川地域・東海道五拾七継」の大津～淀～枚方～守口～大坂高麗橋までを5回シリーズで巡るまち歩き企画を行っています。

第1回 大津 2025年10月18日(土) 終了
第1回として滋賀県建築士会の市川真理さん、柴山直子さんの協力を得て大津宿まちあるきを行いました。JR大津駅前を出発し、大津宿のまち並みを見た後で、京と大坂の分かれ道である「追分」でゴールしています。



追分「みきハ京みち」、「ひだりハふしみみち」



閑栖寺にて記念写真

第2回 淀
次回は55番目の淀宿を2月14日に予定しています。石清水八幡宮、男山四十八坊、淀城跡、淀宿をめぐる予定です。淀のまち歩きの後には伏見で懇親会を行う予定です。
その後、第3回は枚方宿で4月開催、第4回は守口宿で6月開催と続く予定です。毎回まち歩きの後には各地での懇親会を企画しており、建築人にて参加のご案内をいたしますので、みなさまのご参加をおまちしています。

第2回 淀(第55番目)
2月14日(土) 参加申込受付中



「淀城 御茶屋」

第3回 枚方(第56番目)
4月25日(土) 開催予定



「枚方渡口」

第4回 守口(第57番目)
6月6日(土) 開催予定



「守口驛 新川」

第5回 大坂高麗橋 開催日程未定



「大坂 八軒家」



東海道五拾七継ルート 出典：国土地理院発行2.5万分1地形図より作成

絵図出典：「淀川兩岸一覽」より
(大阪市立図書館デジタルアーカイブ)
※都合により日程が変更となる場合があります。

視点交差 建築人×写真人

建築と写真が交差する、建築人ビジュアル企画

本企画は会員が手がけた建築作品を写真家MOAIによる独自の視点と表現で、どのように“料理”されるかを楽しんでいただく企画です。

写真家MOAIの作風は、ハイコントラストや強めの色彩によって日常を非日常へと変換します。建築が竣工写真などとは大きく印象が異なる“新しい姿”に生まれ変わることを楽しんで頂ける方を歓迎いたします。

皆さまが関わられた建築が、写真家の視点で新たな物語を紡いでいきます。

会員の皆さまの応募をお待ちしています。



募集対象建築物

本会会員が設計・施工などに関わった建築物
(竣工年・建物用途・規模不問)

条件：撮影・掲載許可が得られるもの
(施主様等への許可は応募者が取得)



応募方法

詳細問合せ・申込は事務局までご連絡ください

掲載費用：15,000円(税込)

応募に必要な情報(申込後用意頂くもの)

- ・竣工写真2～3点(建物の伝わるもの)
- ・建築物名称、所在地、竣工年
- ・設計者(設計事務所名または設計者名)
- ・施工者



掲載内容

掲載場所：おもて表紙の裏ページ

- ・写真家MOAIによる撮り下ろし作品(大サイズ)
- ・応募時の竣工写真(小サイズ)
- ・建築物名称、竣工年、設計者名、施工者名
- ・写真家名称、など

視点交差 建築人×写真人



掲載ページイメージ

写真家 MOAI (プロフィール)

岩手県出身

1985年大阪芸術大学卒

同年広告企画制作会社にカメラマンとして入社

あらゆる業種業態のクライアントの撮影に関わる

1996年フリーランスとなり

Photo Office MOAI設立

大阪を拠点に広告写真中心に活動中

建築人2025年7月号より表2に

「MOAIの独言」掲載中

「建築人」は会員の皆様で創る会誌として、本企画を進めています。

清新さと力強さを湛えて

佐賀県体育館（現・市村記念体育館） 一九六三年

文・写真 松隈 洋「神奈川大学建築学部教授」

二〇二五年十月末に佐賀県を初めて訪れた際、どうしても今の時点でその現況を見ておきたいと思い、幸いにも県の関係者の案内で見学に立ち寄ることができたのが、坂倉準三の設計により一九六三年に竣工した佐賀県体育館（現・市村記念体育館）である。この王冠のような不思議な屋根形状を持つ体育館の構造設計を担当したのが、先に紹介した丹下健三の香川県立体育館（一九六四年）を手がける構造家の岡本剛だっ

たからだ。また、それは、わが国で最初となる「吊り屋根構造」で建てられた同じ坂倉の愛媛県の西条市体育館（一九六一年）に続いて岡本が試みた意欲作であり、丹下の香川県立体育館へと更なる改良が施されていく。しかし、すでに触れたように、香川県立体育館は、残念ながら、二〇二五年七月に、地元有志らによる自前の保存活用提案が記者会見で公表され、海外を含む多くの賛同者を得たにもかかわらず、同年十二月、

その提案内容と新たに見つかった構造図などのオリジナル資料を精査して再検討することもなく、解体工事の発注が議決され、取り壊しへ向けて突き進んでいる。一方、佐賀県体育館は、二〇二二年に策定された「市村記念体育館活用基本計画」により、独創的な外観を残しながら、「佐賀の未来を創る、佐賀が未来を創る、文化体験・創造拠点」として、耐震化と改修による利活用を図る方針が採択されていた。また、こうした佐賀県の方針を後押しするかのよう

に、二〇二三年六月には、国際組織 DOCOMOMO の日本支部により、日本を代表する近代建築に選定され、その選定理由として、次のような評価が与えられていく。

「佐賀県が作品の価値を十二分に理解し、真摯に保存活用の道を模索された結果、用途は変更されるものの竣工時の意匠の保護に最大限考慮したうえで改修されることとなった、稀有な事例である。」



北側の正面外観全景



南側の舞台から見る内観

何がこのような両者の違いを生んだのだろうか。もともと、佐賀県体育館は、「県立」ではなく、佐賀県北茂安村（現みやき町）出身で、坂倉と同世代のリコー三愛グループを創設した市村清（一九〇〇〜六八年）が私財を投じて建設し、佐賀県に寄贈した施設だった。市村がこの体育館に託した思いについては、坂倉の下で設計を担当した所員の小室勝美が竣工後に書き留めた「佐賀県体育館の設計にあたって」（『近代建築』一九六三年五月号）で引用した、「スポーツ精神を通じて新しい人づくり

に役立たせたい。青少年がこの体育館の前に立った時、思わず身じまいを正すような清潔な建物でありたい」という市村の言葉から読み取れる。偶然にも、文中の「清潔な建物」という文言は、坂倉が追い求めたモダニズムの明晰で透明感のある空間の質と響き合っていた。そして、同じ小室の文章によれば、市村の「郷土愛」に因って敷地に選ばれたのは、旧・佐賀城内の濠に囲まれ、楠の大樹が生い茂る恵まれた場所であり、県立公園として整備される全体計画の中に、隣接して前年の一九六二年に竣工する県立図書館と共に、繰り込まれたのである。こうした建設までの経緯からも、この体育館が好条件で建設されていたことが見えてくる。また、建設当時の佐賀県には、「体育文化などの施設に乏しく」、「県民が一堂に会して文化的な諸行事を行なうに適した施設」は、「皆無と言ってよい状態であった」。そのため、バスケットコート二面、固定客席一〇〇〇席という規模の体育館に、文化的な行事のためのステージと附属諸設備を加える要望が出されたのだという。

こうして、コートを四周の客席が取り囲む単純な平面形で良いはずの体育館に、幕類や緞帳、照明器具などを吊り込むブドウ棚のある広いステージを併設する難しい条件を解決するために導き出されたのが、独特な吊り屋根構造だった。すなわち、屏風型のコンクリート折版構造の外壁上部に吊り綱のケーブルを架け渡し、その上にプレキャスト・コンクリートの薄板ブロックを載せて、H・P シュールの貝殻状の屋根とする方法が採用されたのである。

このような与条件の下で、城跡と楠の太木に拮抗するコンクリート打放しの力強い骨太な外観を持つユニークな形式の体育文化施設が誕生する。また、内部は、文化的な催しにも相応しい「清潔」な雰囲気を持たせるために、磁器質の床タイルや青色タイルの壁、木製の美しいフォルムの手すりなど、随所に坂倉らしい清新さを散りばめて、「文化の殿堂」としての「香り高さ」漂う空間が生み出されている。

訪れると、竣工から約半世紀が経った二〇一七年に体育施設としての利用は停止されたものの、文化祭などの催しで、現在も現役のまま使い続けられており、適切な維持管理が細やかに施されてきたからなのだろう、県民たちに親しまれてきた余韻のような気品が建物全体から感じられた。また、周囲の公園の整備も進められていた。けれども、残念なことに、二〇二一年に利活用の方針が採択され、二〇二五年度の完成を目指していたにもかかわらず、この間に全国各地で発生している事態と同じく、建設資材や労務費の高騰による建設コストの上昇により、改修工事の入札が不発となり、二〇二三年十一月、佐賀県知事は、事業の「凍結」を表明、改修計画は中断されたまま。人口減少が加速する時代の中で、戦後に数多く建設された公共建築は、どうしたら誰もが認める健全な姿と使い方で次世代へ引き継いでいくことができるのか。佐賀県体育館は、現代の私たちに、そう問いかける試金石のような存在であるように思う。その行方を遠くから見守りたい。

耐火認定取得

アルミハニカム パネル

薄くて軽量

* 厚み **85 mm**~



豊富なバリエーション

上支持

厚み 110 mm
135 mm

厚み 85 mm
110 mm

* 下支持

薄くても耐火性に優れ、
意匠の自由度も高いため
さまざまな建築シーンで活躍します。

選べる**天井面化粧板**

不燃認定アルミハニカムパネルと先進技術を融合した

ハイブリッド耐火認定アルミハニカムパネル

認定番号：FP030RF-2063（屋根30分耐火 上支持）

認定番号：FP030RF-2074（屋根30分耐火 下支持 厚み 85 mm）

：FP030RF-2075（屋根30分耐火 下支持 厚み 115 mm）



安田株式会社

お問い合わせ先：マーケティング開発部
製造元：ALHeXa株式会社

▶東京 (03)-5858-0271 ▶大阪 (06)-6251-7152

<https://ashibane.co.jp>
info@ashibane.co.jp





工場と住宅に囲まれた地域に建つ。南西ファサードを見る。



外部と内部を緩やかにつなぐ、中庭のアプローチ。